災害時被災報告システム「CoCoねっと」
と
登下校確認メールシステム

NPO-ROIS
特定非営利活動法人 ロイズ
Research Organization of Information security & Safety at school

NPO法人ロイズ　概要

□私ども、ＮＰＯ法人ロイズは、国際規格のISO27001の基準に基づく情報セキュリティ管理体制づくりと、ＷＨＯ（世界保健機構）のインターナショナルセーフ スクールの基準に基づく生徒の安全対策を強化するための啓発・普及・支援を行う特定非営利活動法人であり、学校の安全対策に資することを目的に活動しています。

□3月11日の東日本大地震における首都圏１５０校の取材から課題を整理し、災害時被災報告システム『CoCoねっと』を開発し、　首都圏の私学協会で運用を進めている『避難校ネットワーク』のための情報連絡システム『避難校ネット』の構築を行っております。

（2018年４月現在、東京・神奈川地区６５０校のネットワークを組んでおります）

一般財団法人　東京私立中学高等学校協会、東京私立初等学校協会、一般財団法人　神奈川県私立中学高等学校協会、神奈川県私立小学校協会

主な会員校

＜登下校管理システム利用校＞
□◆◎　晃華学園小学校
□◆◎〇国本小学校
□◆◎　洗足学園小学校
□◆◎〇聖ヨゼフ学園小学校
□◆◎　捜真小学校
□◆◎〇清泉小学校
□◆◎〇桐蔭学園小学部
□◆◎〇七沢希望の丘初等学校
□◆◎〇立教女学院小学部
□◆◎　菅生学園初等学校
□◆◎〇聖マリア小学校
□◆◎　自由学園初等部
□◆◎　田園調布雙葉小学校

□◆◎　晃華学園中学校高等学校
□◆◎　洗足学園中学校高等学校
□◆◎　神田女学園中学校高等学校
□◆◎　富士見中学校高等学校
□◆◎　香蘭女学校
□　◎　立正大学付属立正中高
□◆◎　ドルトン東京学園

＜登下校確認メール利用校＞
□◆　関東学院小学校

＜連絡メール＋ＣｏＣｏねっと利用校＞
◆◎　国本幼稚園
◆◎　聖クララ幼稚園
◆◎　七沢幼稚園

◆◎　順天中学校高等学校
◆◎　田園調布雙葉中学校高等学校
◆◎　多摩大附属聖ヶ丘中学校高等学校
◆◎　国本女子中学校高等学校
◆◎　トキワ松学園中学校高等学校
◆◎　アレセイア湘南中学校高等学校
◆◎　三輪田学園中学校高等学校
◆◎　桐朋女子中学校高等学校
◆◎　聖ヨゼフ学園中学高等学校

登下校確認メールシステム
利用校24校

災害時被災報告システム
「CoCoねっと」 利用校64校

＜「ＣｏＣｏねっと」利用校＞
◎　東洋英和女学院小学部
◎　関東学院六浦小学校
◎　昭和女子大学附属昭和小学校
◎　カリタス小学校

◎　東洋英和女学院中学部高等部
◎　東京女子学園中学校高等学校
◎　八雲学園中学校高等学校
◎　東京純心女子中学校高等学校
◎　関東学院六浦中学校高等学校
◎　成立学園中学校高等学校
◎　富士見丘中学校高等学校
◎　目白研心中学校高等学校
◎　大森学園高等学校
◎　頌栄女学院中学校高等学校
◎　正則高校
◎　橘学苑
◎　玉川聖学院

＜連絡メール利用校＞
◆　洗足学園大学付属幼稚園

□登下校確認メールシステム導入　◆連絡メールシステム導入
◎災害時被災報告CoCoねっとシステム導入　〇学校WEB連絡システム導入

「学校の安全」へのロイズの取り組み

ご入会
入会金　30,000円
年会費　30,000円

・初回セミナー実施
・ご相談窓口（メール）
・関連情報のご提供

現状把握
・情報セキュリティ診断

・ISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証基準に基づき、現状の　把握を行います

現状把握
・学校の安全向上　基礎診断

・インターナショナルセールスクール（ISS）の認証基準に基づき、現状の把握を行います

学校の個人情報・ネットワーク上の安全

強化すべきポイントのご報告

・情報セキュリティ管理について
1.組織的対策　2. 人的対策
3. 物理的対策　4. 技術的対策
の4つの視点でご報告します

ROIS NPO-ROIS 特定非営利活動法人 ロイズ
Research Organization of Information security & Safety at school

安全向上のポイントのご報告

・ISSの7つの指標に基づき
1.組織的対策　2. 人的対策
3. インシデント情報の収集・対策
4. 協働対策　の4つの視点でご報告します

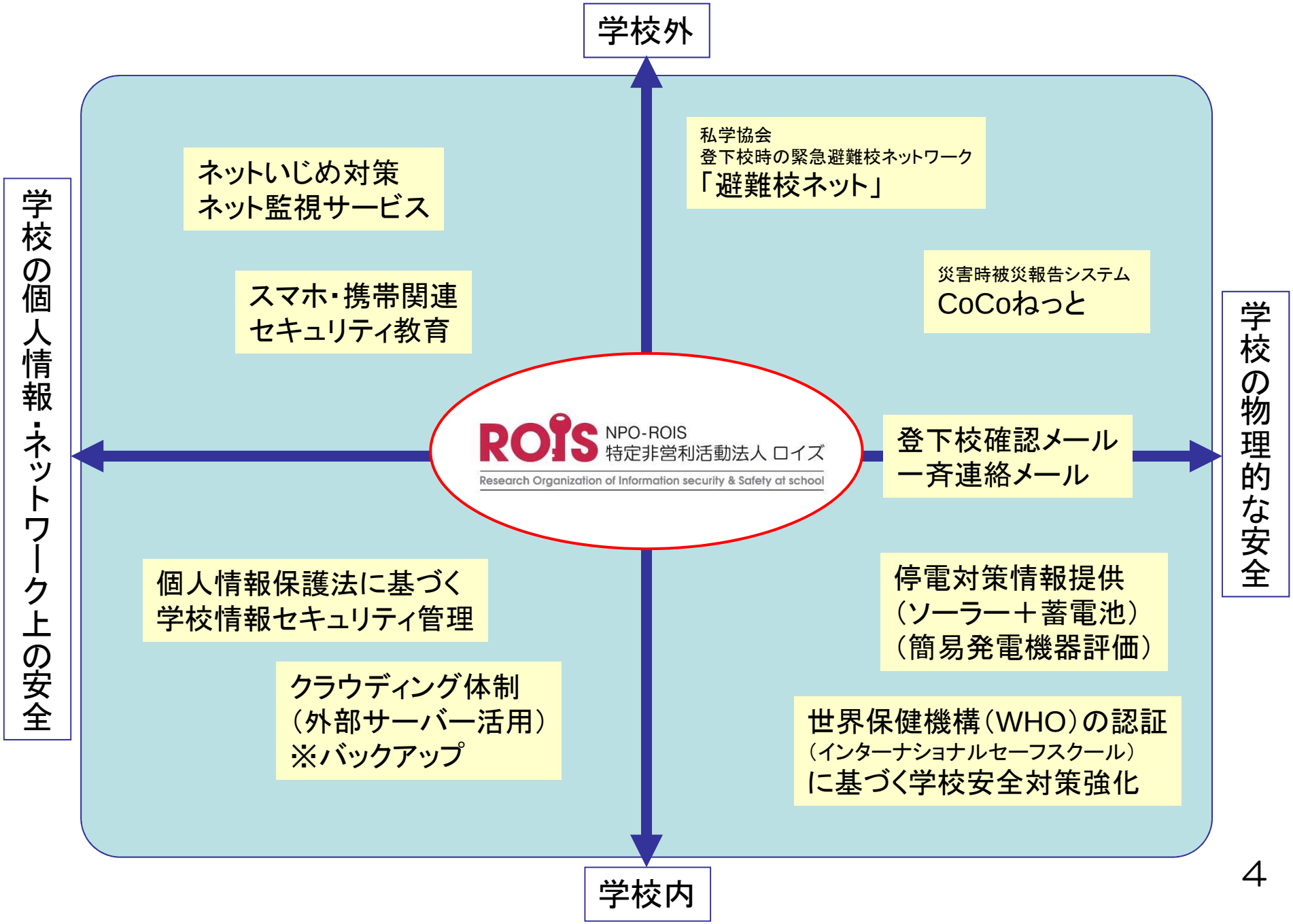
学校の物理的な安全

サポート活動（ご要望により＜有償＞）

・情報セキュリティ校内研修
・情報セキュリティ向上支援活動
・ISO27001取得支援
・各種サポートツールのご提供
・各種関連情報の発信

・ISS基準に基づく安全向上プログムラム
　各種データ収集分析（PDCAサイクル）
・ISS取得支援
・各種サポートツールのご提供
・各種関連情報の発信

NPO法人　ロイズ　「学校の安全」対策サポート（例）



NPO法人ロイズの特徴

1．特定非営利法人である。通常の営利法人とは異なり、売上・利益を目標にしていない。
目標は、「学校の安全対策強化」へのサポートである。

※導入時、導入後も、他社と異なり、学校にとってより「安全な環境」を整備するため、出来るだけ学校の負担増にならないようサポートをしている。

2．同じようなシステムの費用は、通常の営利法人と較べ、人件費がかからないため、
圧倒的にコストパフォーマンスが高い。

※本法人は、協賛社からの様々な支援を基に運営しており、一般企業と異なり、利益が不要のため、設備や運営体制、特にサーバーの仕様・機能が同等であれば、費用を抑えられる。災害時を想定した「より安定した環境」を提供できる。

3．東京私立中学高等学校協会を軸に、首都圏の私立学校の協会の参加を頂き、大地震
などの災害発生時に、学校間の連絡を取り合う仕組み「避難校ネット」を運営している。

※東京私立初等学校協会、神奈川県私立小学校協会、神奈川県私立中学高等学校協会も、本システムに加入。万が一の時には私立学校を避難先として協力し合う「避難校ネット」を、本法人の「CoCoねっと」に加入することでより円滑に利用することが出来る。

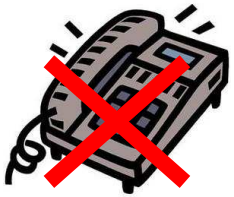
4．「登下校確認メール」システムは、首都圏の私立学校中、26校に導入、公立小学校60校と併せ、他社とは比較にならない規模で運営している。

※システムの運用実績は、そのままシステムの安定・安心度に直結しており、様々な事態（学校のネットワーク環境に起因するトラブル）への対応経験が豊富であり、迅速に対応してきている。
※新しく自動感知式システムを2017年度からサービス開始。（現在、9校稼働）

災害時連絡体制強化策について

	平常時に利用	災害発生時に活用
学校と保護者との連絡	**一斉配信・連絡メール** 学校から、保護者宛に、必要な情報を常時メールでお知らせできる 全校・学年・クラス、クラブ活動別、通学路別など対象を絞り込んだ情報連絡に便利 災害時には、学校にいる児童・生徒を確認し、速やかに第１信メールを配信 ※時間が経過すると遅延、不着となる可能性が高い 大規模な停電があると、携帯電話の基地局は3時間しか機能できない可能性が高く、メール配信だけでは確実でなくなる	**「CoCoねっと」学校からの連絡閲覧報告** 災害時、学校にいる児童生徒や戻ってきた児童・生徒を確認し、逐次、保護情報を掲載、保護者はWEBサイトで確認、遅延なく保護情報を把握できる ※学校側は閲覧した保護者からの閲覧報告をサーバーで逐次チェックできる ※災害時に慌てないために普段活用するサイトにします。　→　遅刻・欠席報告サイト

災害時



アクセスが集中しなければ○

各社
SNSシステム？
災害時伝言サービス

家の電話もダメ、携帯電話もダメ、メールも遅延する、
その時、WEBサイトだけは接続できる。そのための「CoCoねっと連絡システム」

災害時連絡体制強化策について

	平常時に利用	災害発生時に活用
児童・生徒の居場所確認	**登下校確認メール配信** 児童・生徒の登下校時間をメールで把握できる	災害発生時に、初動として、 学校の中にいるのか、学校の外なのかがわかる
	GPS機能端末・携帯電話のGPS機能 防犯・防災のための児童・生徒の居場所確認ツールとして許可している学校が増加している。 ※平常時は、ここセコム、どこいるか等やGPS機能付携帯電話が機能するような環境であり問題はないが、災害発生時には、ネットワーク環境が障害となり、情報がとどかない	**災害時被災報告「CoCoねっと」** 災害時、学校の外にいる児童・生徒が携帯電話を持っていなくても、避難所などの係りの人や協力者に依頼してWEBサイトに居場所・安否を登録、保護者がサイトにアクセスして把握できる（学校側でもサーバーで把握できる） ※電話、携帯、メール、各種GPS端末が機能しないネットワーク環境下では、唯一活用できる仕組み ※まさかの時の「お守り」システム

連動

ご家庭ごとの防犯対策
（登下校時の安否）
「どこいるか」「ここセコム」などや、ＧＰＳ付携帯電話は、平常時、児童生徒の居場所を把握できる。

『避難校ネット』

東京私立中学高等学校協会が軸となり、東京初等学校協会、神奈川県中高協会、神奈川県小学校協会で運用するシステム。
災害発生時に、自校の児童が学校外にいた場合、途中駅周辺の私立学校に避難することで、学校間の情報ネットワークによって、どの学校に保護されているのかが自校で把握できる。

災害発生時の通信制限・障害について

1）ネットワーク全体

震度5強以上の地震が発生すると、公的機関（警察・消防・官庁・行政など）に対して優先割付が行われます。
普通回線は、一般電話、携帯電話で90％の制限がかかります。
（PHSは70％といわれています）
これは、主に通話、SMS（ショートメール）の音声通信です。

2）アクセスポイントの制限

無線基地局、交換設備とも、「ふくそう（アクセス集中による通信不通状態）」やシステムダウンを防御するために、通信制限がかかります。
これは、主に音声通信の場合で、発着信とも不能確率が大幅に高くなる可能性があります。

一方、メール、パケット通信は、発着信とも不通となることはシステム的にはあり得ません。
ただし、メールは、メールサーバ段階でアクセス制限がかかり、メールの遅延、不達が発生します。

インターネットのやり取りは、パケット通信ですので、アクセス先のサーバがダウンしていない限り、通信可能と考えられます。インターネットは、もともとアメリカが軍事目的で、テロや災害に強いネットワークとして開発したものです。
センターがなく、線さえつながっていれば、世界中どこでもアクセス可能です。

3）停電対策

携帯電話の無線基地は、概ね3時間程度の蓄電池を積んでいます。従って、局地的な停電が起きた場合でも、3時間は通信可能状態が持続すると思われます。それ以降は、通信不可となる可能性が高くなります。また、携帯各社では、蓄電能力を上げる努力と、移動式基地局で停電対策を強化しつつあります。

登下校管理システム

登下校確認メールシステム

連絡メールシステム

遅刻・欠席届システム

災害時被災報告システム
CoCoねっと

対策強化実施校（例）
＜小・中高＞
洗足学園
晃華学園
＜小学校＞
国本小学校
捜真小学校
清泉小学校
桐蔭学園小学部
七沢希望の丘初等学校
菅生学園初等学校
立教女学院小学校
聖ヨゼフ学園小学校
自由学園初等学校
聖マリア小学校
田園調布雙葉小学校
＜中高＞
神田女学園
富士見中学高等学校
香蘭女学校
ドルトン東京学園

連絡手段確保のための
停電対策

学校間の情報連絡システム
「避難校ネット」

防災マニュアル

災害時被災報告システム「CoCoねっと」とは

災害発生時に、児童生徒との連絡が取れる学校専用のネットワークです。

携帯電話が繋がらない、携帯メールが遅延する状況においても、メール経由することなく、学校専用のサイトに直接情報を登録することで、児童生徒、保護者、学校の間で瞬時に、情報を登録・確認することができます。

災害発生時においては、携帯各社、大手プロバイダー、SNS運営会社でも、災害時伝言板サービスを用意していますが、災害時には登録者が一斉にアクセス・利用することが想定されます。

3.11では、携帯メールがサーバーの能力を超えるメールが殺到し、ダウンするのを回避するために、アクセス制限をかけた結果、大幅な遅延が発生しました。

また、災害時伝言板サイトやSNSは、アクセスが殺到すると、アクセスができないことが想定されます。

災害時被災報告システム「CoCoねっと」とは

本システムの特徴

●東京・神奈川の私学協会の「避難校ネット」との連携により、 より確実性の高い安否確認体制を構築できます。

※登下校時に、災害が発生した時、生徒の安否を確認できるシステムです。

※学校がセンター機能を果たせない時でも、CoCoねっと利用校の保護者は、自分のお子さんの保護情報を確認することができます。

※携帯電話の機種、通信回線に依存しないで、インターネットに接続できる環境であれば利用できます。

※児童・生徒が携帯電話を持っていなくても、CoCoねっとカードを持っていれば、被災状況を私立学校や避難所などのインターネット回線から登録・報告できます。

※保護者も同様にアクセスして、生徒がどこにいるのか確認できます。

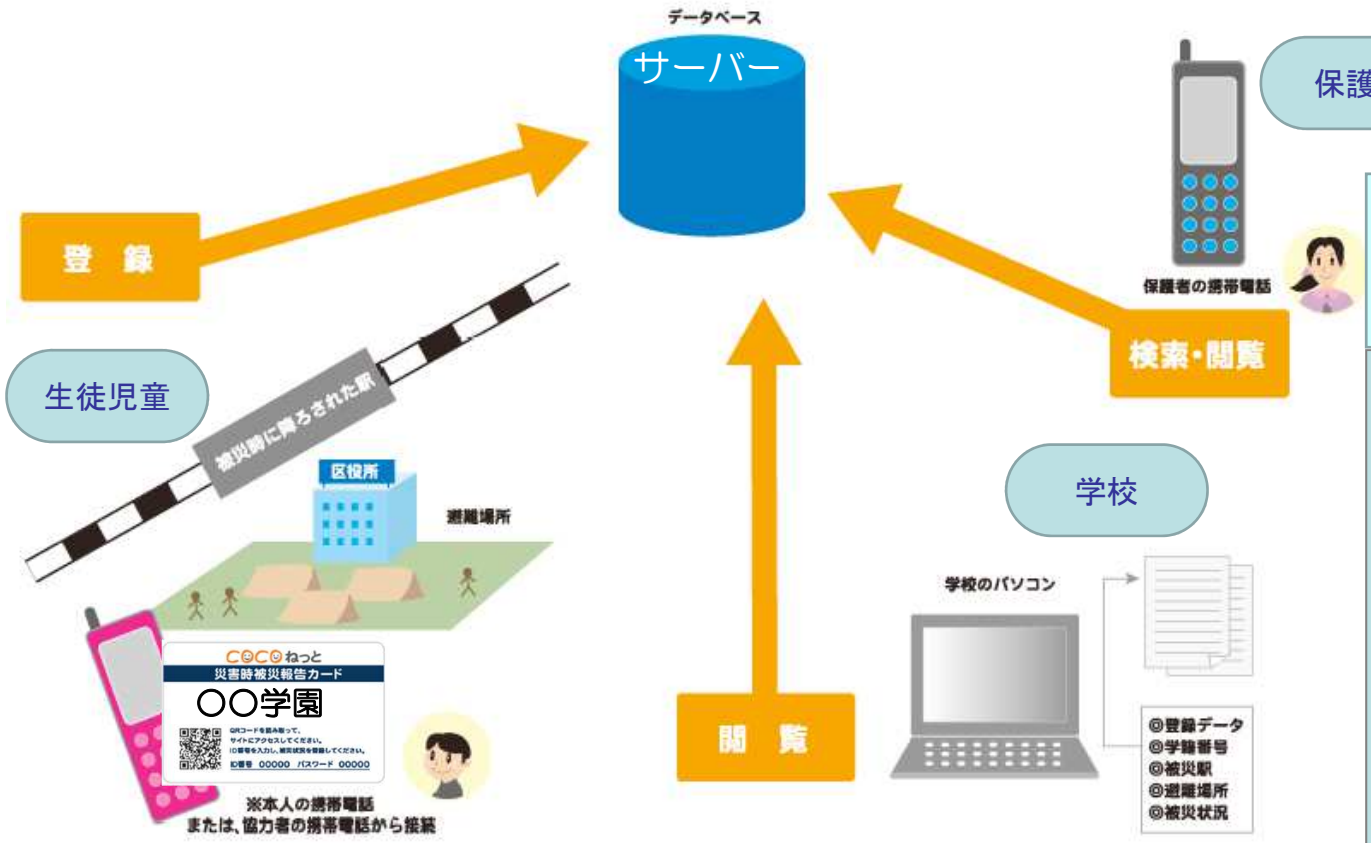
（家族間で、被災状況を報告・確認できる家族専用の伝言板です。）

●**学校連絡メールが遅延する**とき、保護者に「生徒の安否情報」を発信し、保護者からの報告を受けることができます。

災害時被災報告システム　COCOねっと

登下校時に災害発生

大規模な災害が発生し、避難場所に誘導された　でも携帯電話は通話がつながらない
携帯からのメールもいつ届くかわからない、GPS機能も不通となっている
こんな時でも、他の人の携帯・スマートフォンや、避難所のPCなどで
インターネットに接続できれば、安否情報を登録できます。



サーバダウンが起こらない限定人数で運用

サーバーは関西以西にあり、10万IDアクセスが同時集中を想定しています

10校1サーバーを基準に、保護者を含めて管理IDは
最大4万5千IDを想定
※1校あたり
・生徒1,500名
・保護者2×1,500名
　　計4,500名×10校

災害時被災報告システム「CoCoねっと」を採用する必要性

1. 防災対策を強化し、保護者の安心度合いを高めるため

※3/11を経験し、携帯電話やメールが地震発生後には使えないことへの対応として導入

※学校外で災害にあった場合、駅等で交通機関がストップするため周辺の①私立学校に避難（「避難校ネット」で自校に連絡）②インターネットに接続できる端末から保護者と「CoCoねっと」で居場所（避難所）など相互連絡が取れる。

※学校の管理サイトにも、児童生徒がどこに避難しているかが登録される。

2. 放課後の地震発生時に、携帯の通話やメールはほとんど使えない

※インターネットのサイトに直接書き込むので、地震発生後でも、保護者宛に自分の安否情報を遅滞なく登録できる

※GPS機能端末・電話は、メールでのやり取りのため遅延が発生する可能性が高く、保護者まで生徒児童の位置情報が伝わらない。 ＜詳細次ページ参照＞

3. インターネット回線が使える端末があれば、保護者に安否を伝えられる

※生徒児童が携帯を持っていなくても、避難所のパソコンや周りの大人の携帯電話からサイトに安否情報を登録できるので、保護者と連絡が取れる可能性が高い。

※携帯電話禁止校こそ、災害時に「CoCoねっと」カードを持たせることで、携帯電話を持つ必要なく、保護者と連絡を取り合える手段を確保できる。

4. 学校に頼らず、学校外にいる生徒の安否が確認できる

※避難校ネットと併用することで、学校に保護されている場合、保護者側で安否が把握できる。

防災担当者にとっての、災害時緊急報告システム 「CoCoねっと」導入の意義

- 昨年12月の大阪での地震の時のように、登下校の時間帯に大災害が発生した場合、保護者は、わが子の安否確認が一番大事なことと言えます。

- その際、「CoCoねっと」を導入していないと、保護者は、まず、学校に無事かどうかを確かめたくなります。

- その時、連絡がつかないと不安が募ります。

- 「CoCoねっと」を導入している学校の保護者は、学校からの情報に頼るのではなくわが子とタイムラグなく連絡を取り合える可能性が高まります。
  思考回路が、「学校に〇〇してほしい」ではなく「CoCoねっとを活用して自助努力」で連絡を取り合いましょう、に転換します。

- 防災担当者様においては、学校の外の生徒は「CoCoねっとを活用した自助努力」、学校内にいる生徒の安全確保に集中できます。

発災時に、学校外で被災し、避難するとしたら.....

1 途中駅などで降ろされた。

駅周辺に私立学校がある

2 私立学校に避難

3 避難校ネットにより自校に連絡

電車等で下ろされた場合、駅周辺の私学に保護してもらえます。
保護した学校が「避難校ネット」に登録することで、保護した生徒の学校がどこに保護されているのかが把握できます。
CoCoねっとに加入している学校であれば、登録時にカードに記載されてるID、パスワードで簡単登録でき、その生徒の保護者が、CoCoねっとサイトから直接どこの私学に保護されているのかが把握できます。

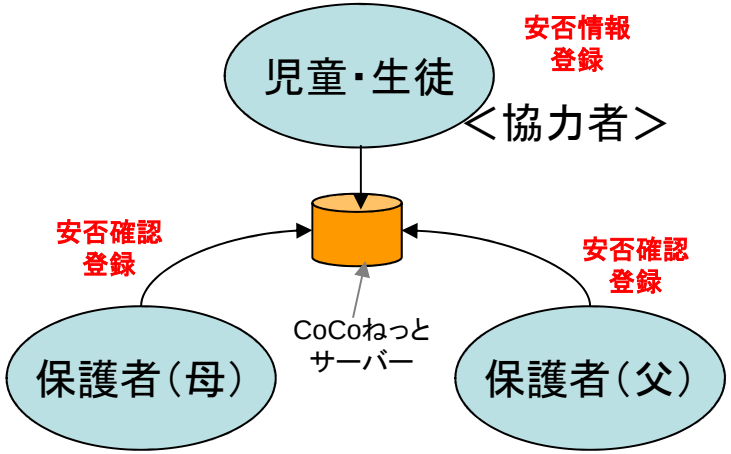
駅周辺に私立学校がない

2 誘導に従い避難所に避難

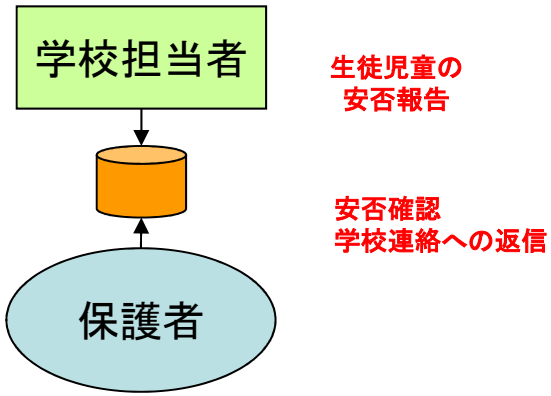
3 CoCoねっとカードを活用

避難場所など、私学以外の場所に避難した場合、避難所のパソコンや、自分の携帯や自分以外の携帯電話から、家族専用の伝言板に安否情報を登録できます。
※学校、保護者、生徒が安否情報を確認しあえ、どこにいるのかが把握できます。

＜災害時　児童生徒が学校外にいる＞
家族間で、情報を登録することで、安否などを確認できる

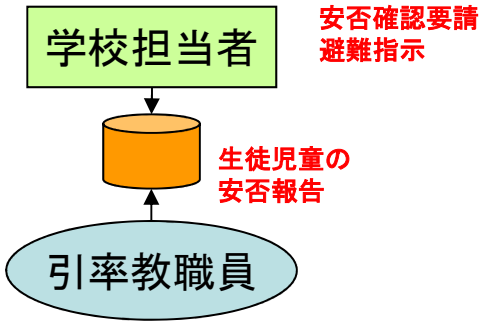


＜災害時　児童生徒が学校内にいる＞
学校から個々の保護者宛に、学校にいる旨を登録できる。それに対して、保護者は、「お迎え可能」などの予定を返信できる

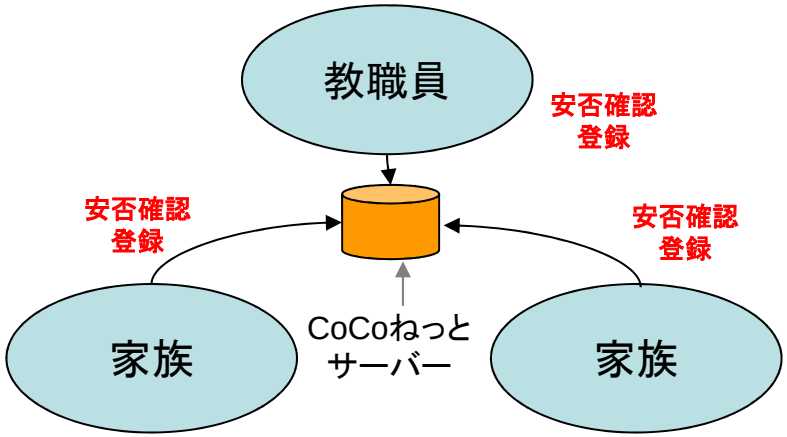


＜教職員＞

＜災害時　引率などで学校外にいる＞
学校から、引率中の教職員宛に、所在確認などの報告する旨を登録できる。
それに対して、教職員は、「さいたまアリーナで待機」などと現状報告を返信できる



＜災害時に教職員が帰宅途中など＞
教職員の家族間で、情報を登録することで、安否などを確認できる



災害時被災報告システム「CoCoねっと」 利用画面

①携帯電話、パソコンからアクセスします。（カードに記載してあるQRコードを読み取るか、URLを入力してください）
②ログイン画面がでますので、学校番号、ID、パスワードを入力します。

①生徒が学校にいる場合

保護者から学校に返信の連絡を入れてください。

初期画面：「報告登録」と「記事閲覧」

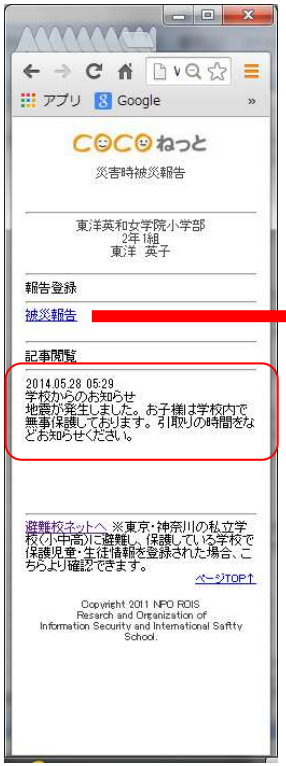
1）記事閲覧に、「学校からのお知らせ」として
生徒を保護しています等の連絡が入ります。

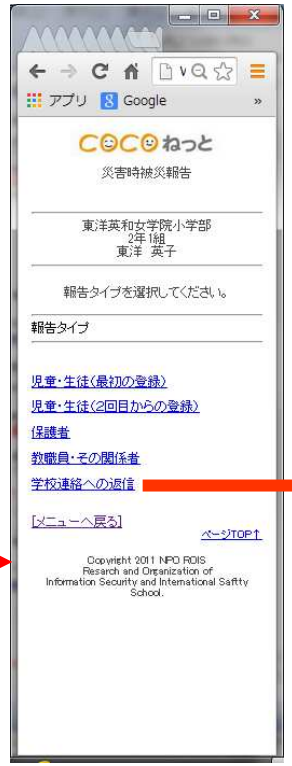
2）「被災報告」をクリックして
「学校連絡への返信」をクリックします。

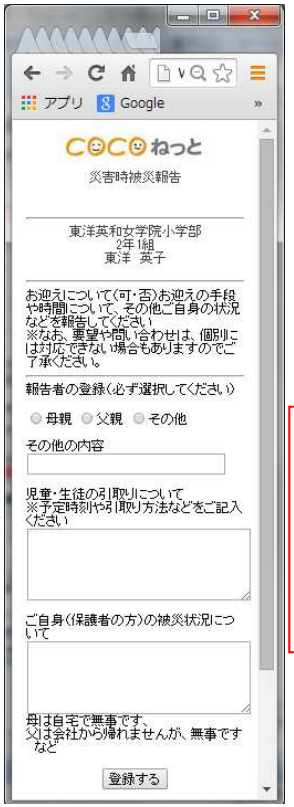
3）学校への返信を記入して「登録」します。
（※登録情報は、初期画面に表示されます）

ログインページ

初期画面







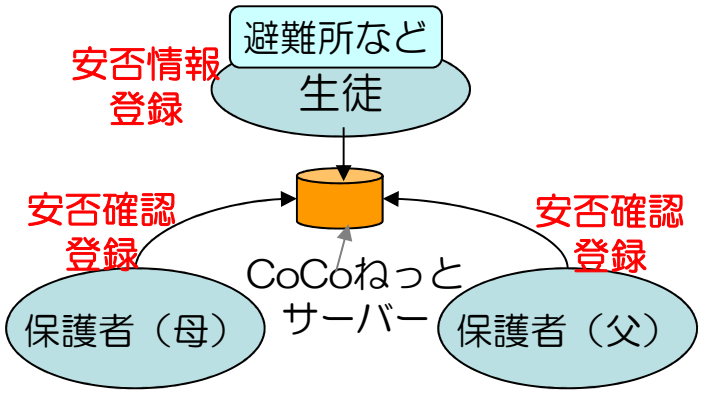
「記事閲覧」の下に、登録されている情報が出ます。
最新順で表示されています。

災害時被災報告システム「CoCoねっと」 利用画面

②生徒が登下校中の場合

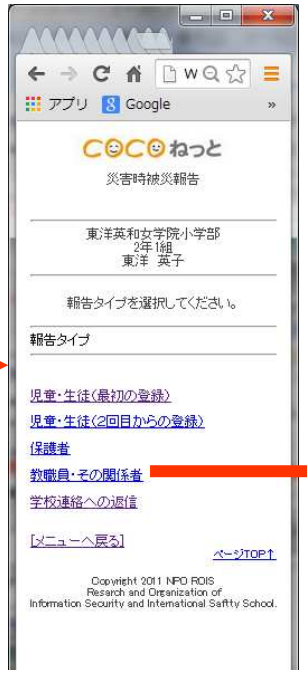
途中駅などで降ろされ避難所などに誘導されたら

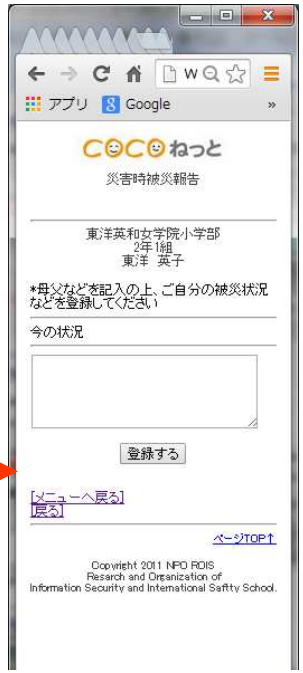
1）【生徒】CoCoねっとカードを見せて、避難所などのパソコンから登録をお願いします。



2）【保護者】初期画面に、児童の安否情報がないか確認してください。

初期画面





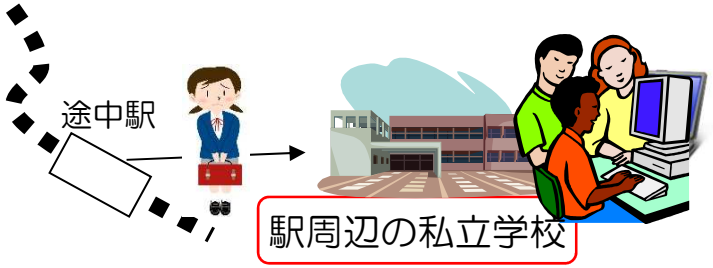
3）【保護者】被災報告をクリックし、「保護者」を選択。
※「迎えに行きますので、そこを動かないように」などの連絡を登録します。

保護者の方は、ご家族の間で、相互の安否確認のための災害時伝言板として活用いただけます。

災害時被災報告システム「CoCoねっと」 利用画面

③他の私立学校に避難した場合

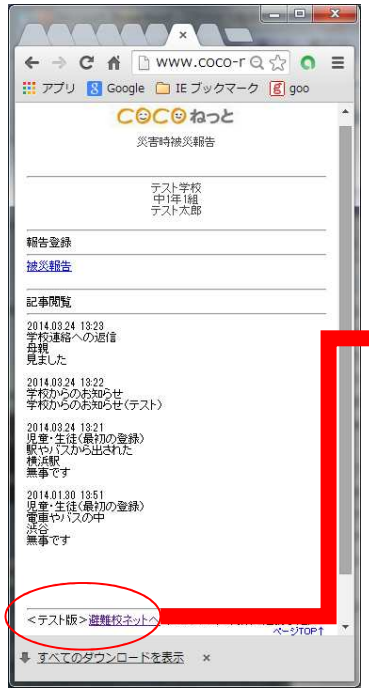
1）【生徒】カードを避難先の先生に渡して、「避難校ネット」に登録してもらいます。

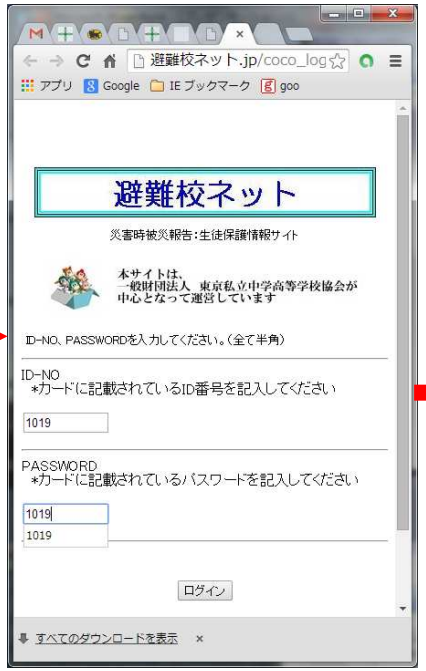


「避難校ネット」とは、東京・神奈川の私立学校間（小中高）で、災害時、他校の帰宅困難児童・生徒の保護情報を登録し母校に通知できるシステムです。

2）【保護者】他の私立学校に避難していないか確認します。

初期画面





避難校ネットについて

東京私立中学高等学校協会が軸となり、東京私立初等学校協会、神奈川県私立中高協会、神奈川県私立小学校協会にて導入、加盟650校。

・他校の生徒児童が避難してきた場合、加盟校はその生徒児童を一時的に預かり保護します。

・避難してきた他校の生徒児童の安否情報をシステムを通じて登録することで、母校（加盟校）で、誰がどこの学校に避難しているかを確認することができます。

・上記都県の私立学校全てが加盟しているため、通学途中の災害発生時に電車などから　下ろされた場合、駅周辺の私立学校に避難できます。
※家から学校までの通学路（通る駅）周辺にある私立小学校・私立中学校・私立高校を事前に調べ、その所在地を確認しておいてください。
通学路線・駅から最寄りの学校を検索し地図を印刷できる「CoCoまっぷ」やGoogleマップ等を活用して調べ、プリントアウトした地図や情報を常に持ち歩く、などが有効です。

・男子は男子校もしくは共学校に、女子は女子校もしくは共学校に、避難するようにしてください。
なお、<u>避難先の学校の状況によっては受け入れてもらえない場合もあります</u>。
必ず家から学校までの各駅で、<u>複数の学校</u>を候補として考えておいてください。

・ただし、駅構内や公共施設内にいた場合は、急いで私立学校を目指すのではなく、まずはその施設のアナウンスに従ってください。

「COCOまっぷ」システム

本システムにより、登下校時に発生する大地震に備えて、保護者の方が自宅から学校までの通学路線にある私立学校の最寄駅地図を予め出力し、児童・生徒に常時持たせるようにしていただくことができます。

「CoCoまっぷ」サイトアドレス
http://npo-rois.org/coco-map.html

- 利用に当たっては、利用者登録が必要となります。
- 利用費無料

登下校確認メールが学校の安全対策強化（防災・防犯対策）のひとつとして導入される理由

１．登校下校時間を把握できる

※登校メールが送られることが習慣となり、万が一事故などで、家を出たのに学校に着いてないことが即わかります。

※下校メールが送られることが習慣となり、およその帰宅時間が想定できます。

※下校後に災害が発生した場合、学校を何時に出たかがわかり、どのあたりにいるのかが想定されます。

※導入以前は、保護者より学校に確認のための電話に対応するのが大変だったのが、導入後必要なくなった。

２．出欠管理に応用できる

※ICカードでのタッチやICタグによる自動感知で、登校下校情報をデータ化できます。出欠をとらなくても、予め欠席がわかるため、HRなど時間短縮も可能となります。

※毎日のメール配信が不要な場合は、保護者は、必要な時に、サイト上で登下校時間を確認することができます。

３．保護者の方に、目に見える形で安全対策強化をアピールできる

※ICカードによる登下校確認メールを導入することで、保護者の安心感が高まります。

※併用する「災害時被災報告システムCoCoねっと」により、通学時に災害が発生した場合の「まさかのときのお守り」として児童生徒と保護者が連絡を取り合える体制が用意されていることがわかります。

４．目に見える安全対策である登下校確認メールシステム導入は、 保護者の受益者負担が可能

※現在多くの学校で採用している一斉連絡メールの仕組みは、学校側の経費負担の場合がほとんどだか、登下校確認メールを導入するうえで、毎日の安全対策ということが理解されて、月コーヒー1杯程度の負担は充分理解いただいている。

※これによって、学校によっては、50万以上の経費削減となっている。

５．毎日のメール連絡によって、アドレス管理を１００％把握できることになる

※一斉連絡メールだと、アドレスを変えても変更をしていないケースがあったり、フィルタリングでメールが届かないことが多々あったとしても、登下校確認メールは毎日利用されるので、未着不着がすぐにわかり、対応がすぐにでき、メールの１００％配信を可能とします。

６．ロイズのシステムは、採用校での事務負担がほとんどないので安心して導入可能

※導入検討時によく聞かれるのが、事務方の負担や面倒が増えるのではという心配。これまで導入した学校でほとんどそのような心配は不要であることがわかります。

登下校確認メール配信システム　導入手順

導入型の選択

- 全校利用
  - 登下校メール配信
    - ・全員
    - ・希望者のみ
- 学年限定
  - ・新1年生
  - ・中学生
- 希望者利用
  - ・クラブ活動

ＩＣ端末の選択

- オリジナルＩＣカード
  - ・@750（税別）
- 交通系ＩＣカード
  - ・Pasumo/Suica
- 自動感知式ビーコン
  - ・@３０００円（税別）
    レンタル　月額100円（税別）

リーダーの選択

- 常設　壁設置
  - ・昇降口
  - ・各フロア
  - ・各教室
- 移動式
  - ・卓上タイプ
  - ・パネルタイプ

守衛室内

鞄などにいれておくタグ

導入費用について

生徒・保護者用CoCoねっとシステム：各学校単位で加入頂けます。

＜全て税別です＞

■協会会員校　学校単位利用費　（年間　税別）

〇NPO-ROIS入会金　30,000円
〇NPO-ROIS年会費　30,000円
〇生徒世帯　1世帯あたり、20円/月
※DB登録、ID発行、簡易カード（紙）
　１世帯あたり３枚の発行費を含む

例）全校、教職員数・生徒数　1200名
→1200×@20×12ヶ月=288,000円
※防災費、保護者会費などで充当する場合が多いです

※PETカード利用の場合は別途　500名×3名分≒1,500枚　　@100　150,000円
※期の途中、カードを紛失された場合、簡易カード（紙）を再発行します。
※既存のカード式学生証や登下校確認メール用ICカード裏面などに添付するシールでの対応も可能です。

災害時被災報告システム「CoCoねっと」　試用案内

お持ちの携帯電話、パソコンからアクセスして、
お試しいただけます。

右記に記載してあるQRコードを読み取るか、URLを入力してください。
ログイン画面がでますので、学校番号、ID、パスワードを入力します。

CoCoねっと

URL http://coco-net.net/
学校NO.　99
ID　1019　　PW　1019

連絡先
NPO法人ロイズ（特定非営利活動法人　情報セキュリティ研究機構）　http://npo-rois.org/　担当　松田・内藤
〒141-0031　品川区西五反田7-17-9　電話番号：03-6416-0833　E-mail：　matsuda@npo-rois.org

ENEPO (カセット式自家発電装置）

おなじみのカセットボンベだから、手軽に買える
エネポは、鍋や焼き肉をするときに活躍するカセットこんろ用のカセットボンベで動きます。もちろん、買い置きのものでもOK。ご自宅になくてもスーパーやホームセンター、コンビニなどですぐに手に入れることができます。使用可能なガスボンベ
持ち運びしやすく、保管も楽々
専用の容器が必要なガソリンと違って、カセットボンベなら持ち運びもしやすく、こぼれたりする心配もないのでずっと手軽です。また、カセットこんろ用のものと扱い方は何ら変わりませんので、ご自宅での保管も楽々。汚れや嫌な臭いを気にする必要もありません。

災害などでもし停電になってしまった場合、非常用の電源として活用することができます。携帯を充電したり、暖房器具を使ったり、暖かい飲み物を飲むことができれば、心が安らぐきっかけにもなるでしょう。しかも、燃料のカセットボンベは買い置き・保管がしやすいのが特徴です。

※カセットボンベは別売りです。

http://www.honda.co.jp/generator/enepo/feature/index.html

非接触型タッチ式「登下校確認メール」導入事例について

晃華学園中学高等学校

2010.09導入スタート
目的・契機
生徒の放課後・休日の
登下校情報の把握
運用
パスモ・スイカカード
900名で、リーダー4台
全校生徒利用

国本小学校

2011.06導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、学校の安全
対策強化
費用と体制で評価頂く
運用
オリジナルICカード
300名で、本校リーダー3台
町田校舎リーダー2台

田園調布雙葉小学校

2011.11導入スタート
目的・契機
保護者からの要望から、ロイ
ズの学校の安全対策を採用
運用
オリジナルICカード
720名で、
玄関外1台、下駄箱周辺3台

関東学院小学校

2011.04導入スタート
目的・契機
自動感知式からの変更
費用と体制で評価頂く
運用
オリジナルICカード
460名で、リーダー6台
登校用と下校用を区別

洗足小学校

2011.09導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、携帯電話重
視からロイズの学校の安全
対策を採用
運用
オリジナルICカード
480名で、各教室に設置
リーダー12台

非接触型タッチ式「登下校確認メール」導入事例について

洗足学園中高

2012.04導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、ロイズの学校の安全対策を採用
運用
オリジナルICカード
当初、中学1～高1生1200名
移動式リーダー4台

聖ヨゼフ学園小学校

2013.01導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、ロイズの学校安全対策を採用
運用
オリジナルICカード
460名で、昇降口に
リーダー4台

清泉小学校

2013.04導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、学校の安全対策強化
運用
オリジナルICカード
640名で、
本校：こども玄関2台。
各階4台×3階=12台
三浦自然教室：
移動式リーダー2台

捜真小学校

2012.09導入スタート
目的・契機
3.11を契機に、ロイズの学校安全対策を採用
運用
オリジナルICカード
360名で、昇降口に
リーダー4台

各校の利用環境、校舎の事情、教職員の方のご希望により、

運用方法やリーダーの設置数、タイプ選択など対応している。